

第19回連合駿台会学術賞・学術奨励賞

【駿台懇話会の目的】

明治大学と連合駿台会が相互の情報交換と親睦を図り、母校の教育振興と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

1. 連合駿台会学術賞

【社会科学】 にしかわしんいち 西川伸一（政治経済学部専任教授）
『最高裁判官国民審査の実証的研究』

【人文科学】 せきぐちひろあき 関口裕昭（情報コミュニケーション学部専任准教授）
『パウル・ツェランとユダヤの傷—《間テキスト性》研究』

【自然科学】 しぶやなおと 澁谷直人（農学部専任教授）
『Two LysM receptor molecules,CEBiP and OsCERK1, cooperatively regulate chitin elicitor signaling in rice.』
『From defense to symbiosis : limited alterations in the kinase domain of LysM receptor-like kinases are crucial for evolution of legume-Rhizobium symbiosis.』

2. 連合駿台会学術奨励賞

該当者なし



連合駿台会報

No. 308 平成25年3月25日発行
編集・発行 連合駿台会
広報委員長 齋藤柳光
〒101-0052 千代田区神田小川町三十二
明治大学「紫紺館」内
電話（〇三）三二九六―四七四七
FAX（〇三）三二九六―四七四八
印刷 有限会社 美創



〈左から〉澁谷直人先生、関口裕昭先生、山口政廣会長、日高憲三理事長、福宮賢一学長、西川伸一先生

連合駿台会学術賞を授与

新春の駿台懇話会(二月例会)

平成二十五年最初の連合駿台会例会(駿台懇話会)を、一月十六日(水)十七時半より、明治大学アカデミーコモン二階「ビクトリーフロア暁の鐘」で開催しました。

山口政廣会長の挨拶に続いて、学術賞三人の名前およびその選考経過が発表されました。そして受賞者を代表して、西川伸一・政治経済学部専任教授の受賞記念講演がありました。

講演の要旨は以下の通りです。

*

「第二十二回最高裁判所裁判官国民審査の結果をどうみるか」

はじめに

ただいまご紹介にあずかりました、政治経済学部の西川でございます。このたびは、権威ある連合駿台会学術賞を賜り光栄の至りに存じます。

拙著のテーマとしております国民審査が、ちょうど昨年十二月に実施されました。きょうのお話では、その結果を拙著の内容を踏まえながら分析してまいりたいと思います。

1 最高裁判所裁判官国民審査とはなにか

繰り返しになりますが、二〇一二年十二月十六日は衆議院議員総選挙と第二十二回最高裁判所裁判官国民審査の投票日でした。まず、国民審査はいつ行われ、だれが審査対象になるのかを確認しておきます。それは日本国憲法七十九条二項にこう規定されています。

「最高裁判所の裁判官の任命は、その任命後初めて行はれる衆議院議員総選挙の際国民の審査に付し、その後十年を経過した後初めて行はれる衆議院議員総選挙の際更に審査に付し、その後も同様とする。」

つまり、最高裁判官に任命されてはじめて迎える総選挙の折りに国民審査にかけられ、その後十年してはじめて迎える総選挙で再び審査対象になる、というわけです。最高裁判官の定年は七十歳です。そして、いまでは最高裁判官には六十歳を過ぎた方しか事実上任命されません。従って、各裁判官は国民審査には一回しかかかりません。

次に投票方法については、最高裁判所裁判官国民審査法十五条に定められています。「審査人は、投票所において、罷免を可とする裁判官については、投票用紙の当該裁判官に対する記載欄に自ら×の記号を記載し、罷免を可としない裁判官については、投票用紙の当該裁判官に対する記載欄に何等の記載をしないで、これを投票箱に入れなければならない。」

ない。」

やめさせたいと思う裁判官には×印をつけて、それ以外の裁判官については空欄のまま投票せよというわけです。投票用紙をみると、右から左に審査対象裁判官の氏名が縦書きで並んでおり、その上に記号を付ける欄があります。後でご説明しますように、裁判官の並び順が実は重要なのです。この順番を告示順といいます。これは中央選挙管理会がくじによって決めることになっています(同十四条)。

こうして投票が実施された結果、どうなるのでしょうか。憲法七十九条三項にそれが書かれています。

「前項の場合〔国民審査〕において、投票者の多数が裁判官の罷免を可とするときは、その裁判官は、罷免される。」

×票が空欄票を上回った裁判官はその職を解かれるのです。とはいえ、これまでのべ百七五人の最高裁判官が審査されてきましたが、これにより罷免させられた裁判官は一人もいません。百七十五人のうち最も×票率が高かったのは、第九回国民審査(一九七二年)で審査を受けた下田武三裁判官で、×票率は一五・一七パーセントでした。

いま×票率と申しましたが、これからの分析のために、用いる言葉を正確に定義しておくことにします。

審査対象裁判官・甲に対する×票、すなわち「罷免を可とする投票」を（a）票とします。一方、甲に無印で投じられた「罷免を可としない投票」を（b）票とします。さらに（a）票と（b）票を合わせた甲に対する総有効投票数を（c）票とします。そして、（a）を（c）で除した百分率を甲に対する「個別的罷免要求率」とよぶことにします。

これに対して、ある回次に審査対象となった各裁判官の（a）票の合計を（A）票とし、（b）票の合計を（B）票とします。これら（A）票と（B）票の合計を（C）票とします。そして、（A）を（C）で除した百分率をその回次の「全般的罷免要求率」とよんでいきます。

2 第二十二回国民審査の結果分析

先月施行された第二十二回国民審査の基礎データは図表1のとおりです。個別的罷免要求率の最高が岡部喜代子裁判官の八・五六パーセント、最低が小貫芳信裁判官の七・七九パーセントでした。加えて、この回次の全般的罷免要求率は八・〇八パーセントとなりました。

もちろん、審査を受ける裁判官は万が一にも罷免はされまいと思っています。「ただ、×印の数が、他の裁判官に比べて多いか少ないか気にしていた」と経験者は述べています

（朝日新聞裁判班編 一九七二・一五三）。×票の多寡を決める要因には何が考えられるでしょうか。ダネルスキーというアメリカの政治学者がかつて、第一回から第七回までの国民審査について統計解析を行いました。そこから、審査対象裁判官数が多ければ多いほど、全般的罷免要求率は低下するという仮説を提示しました。

これまでで審査対象裁判官数が最も多かった回次は第一回（一九四九年）で十四人でした。その回次の全般的罷免要求率は四・四パーセントで、全三十二回中最低の数値です。一方、最も対象者が少なかったのは第三回（一九五五年）で一人でした。全般的罷免要求率（といっても個別的罷免要求率と同じになりますが）は一二・四九パーセントです。ただしこれは歴代最高率ではなく、第三位の数値です。最も高い全般的罷免要求率は第十二回（一九八〇年）の一四・三八パーセントです。このときの審査対象者は四人でした。

ダネルスキー仮説に立てば、審査対象者数と全般的罷免要求率は反比例することになります。なぜそうなるのでしょうか。実際には、ほとんどの有権者は裁判官を個別に認識して×印を付けるわけではなく、最高裁全体へ異議申し立てとして×印を付ける。ではだれに×印を付けるかといえば、最初に目に入る投票用紙の右側に記載された裁判官になる

というわけです。そして、その数人に×印を付ければ気が済むので、投票用紙の左側にくにつれて×印は付かなくなっていくます。すなわち、審査対象者が多く投票用紙が長い回次ほど、全般的罷免要求率は低く出ることになります。

第二十一回（二〇〇九年）の場合、審査対象者は九人で全般的罷免要求率は六・六九

図表1 第22回国民審査の執行結果

告示順	裁判官氏名	×印(a)	無印(b)	総有効投票数(c)	罷免要求率	同左順位
1	山浦 善樹	4708497	53041797	57750294	8.15320005	②
2	岡部喜代子	4945084	52805272	57750356	8.56286323	①
3	須藤 正彦	4674807	53075623	57750430	8.09484362	⑤
4	横田 尤孝	4696669	53053780	57750449	8.13269694	④
5	大橋 正春	4576916	53173548	57750464	7.92533199	⑧
6	千葉 勝美	4698942	53051460	57750402	8.13663946	③
7	寺田 逸郎	4588376	53162027	57750403	7.94518438	⑧
8	白木 勇	4661824	53088581	57750405	8.0723659	⑥
9	大谷 剛彦	4633074	53117290	57750364	8.02258839	⑦
10	小貫 芳信	4499849	53250544	57750393	7.79189329	⑨
	合計	46684038	530819922	577503960	8.08376067	

作成参照：総務省のホームページ「平成24年12月16日執行 衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査 速報結果」
http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/data/shugiin46/index.html。

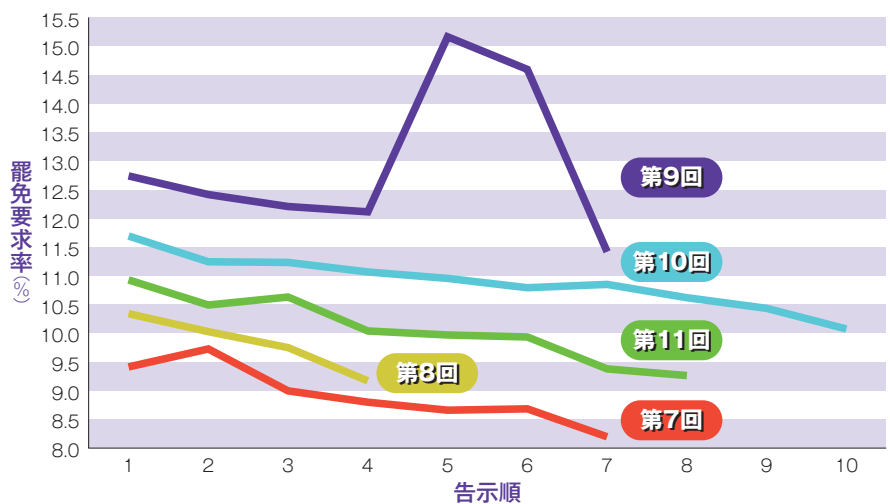
パーセントでした。今回の第二十二回の審査対象者は十人になりましたので、全般的罷免要求率は前回を下回るだろうと予想しました。ところが八・〇パーセントに達しました。あとでその理由を検討します。

さて、ダネルスキー仮説に関連してもう一つ指摘できる現象は、「順序効果」とよばれるものです。投票用紙の右側に記載された数人に×印が付けられるということは、×印の合計数は告示順に従って左へと通減していくと考えられます。すなわち、順序が結果に影響を及ぼす順序効果がみられるのではないかと。第七回から第十一回までの国民審査における告示順の個別的罷免要求率を、グラフにしたのが図表2です。x軸の数値は左から右へ並べますので、ここでは告示順を左から右へ記しました。順序効果が認められれば、グラフは右肩下がりになるはずです。

グラフをみますと第九回を除いて、順序効果がおおよそ読み取れます。第九回については、前述の下田と岸盛一の二人の裁判官について、革新政党と労働組合が×印を付けようという組織的な運動を熱心に展開しました。そのため、この二人に多くの×印が集まりました。しかし、彼ら以外の五人については順序効果が確認できます。

では、第二十二回はどうかだったのでしょうか。上記の図表1をグラフに直したのが図

図表2 告示順の個別的罷免要求率(第7回～第11回)



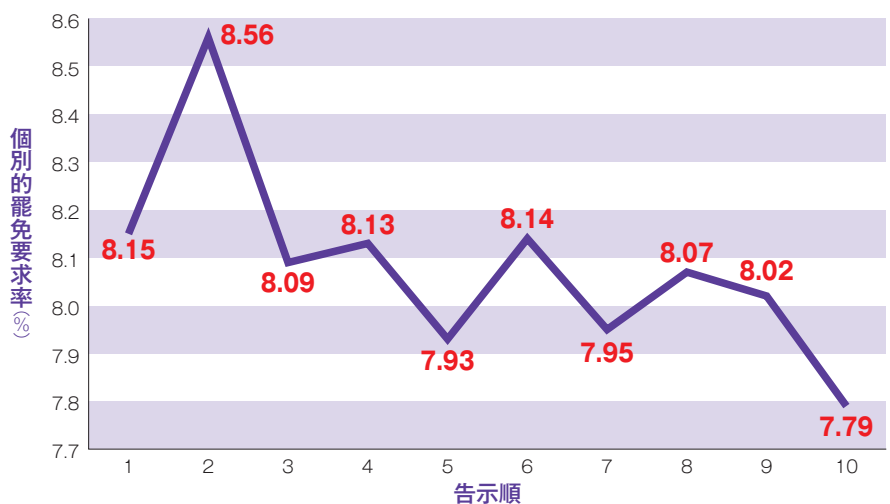
出所：西川（2012a：250）

表3です。このように、傾向的な順序効果はみてとれるものの、告示順第二位が突出して高く、第五位と第七位がやや低くなっています。これらはどう理解すべきなのか。

3 第二十二回国民審査の特徴をどう理解したらよいのか

ダネルスキー仮説に反して、第二十二回

図表3 告示順の個別的罷免要求率(第22回)

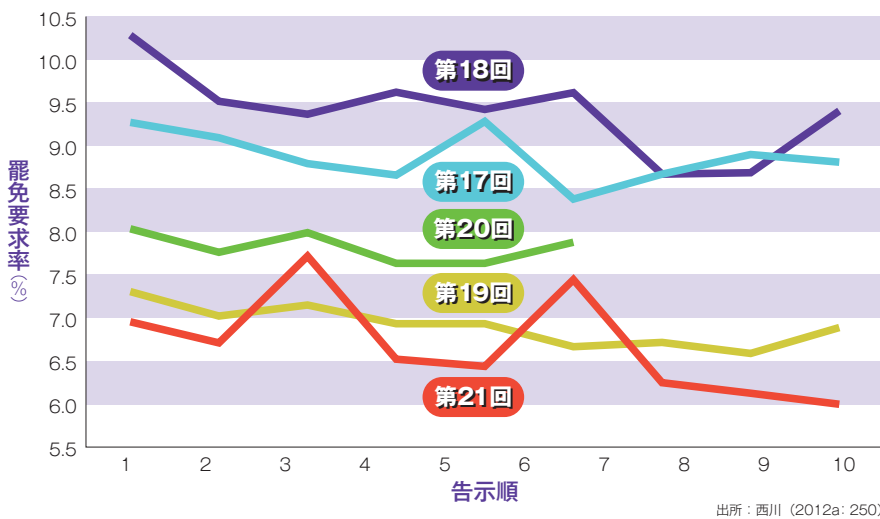


図表1に基づき、筆者作成。

の全般的罷免要求率は、審査対象者が前回第二十一回より一人増えたにもかかわらず、前回より一・四ポイントほど上昇しました。ただ、第二十一回は興味深いグラフの形状を示しています（図表4）。

なぜ第二十一回のグラフが双峰的になっているかといえば、告示順第三位と第六位の裁判官に×印を付けようとよびかける組織的

図表4 告示順の個別的罷免要求率(第17回~第21回)



な運動が展開されたからです。具体的には、「二人一票実現国民会議」という市民運動団体が豊富な資金力をてこに、国民審査を前に大新聞に一面広告を何度も出しました。そこで「一人一票」に反対する判決に与した二人の裁判官に×印を付けよう訴えたのです。これに感化された有権者が第三位と第六位の裁判官に×印を付け、その結果グラフの形状は

「いびつ」になったと推測されます。

第二十二回にあたって「一人一票実現国民会議」は、対象裁判官十人全員が一人一票に反対だとして、全員に×印を付けようと世論を喚起しました。そして、前回同様に全国紙に意見広告を打ちました。これに影響を受けた有権者が全員に×印を付けて、全般的罷免要求率を引き上げたのではないのでしょうか。

今回の全般的罷免要求率が前回を上回った。もう一つの要因として、投票率が考えられます。同時に実施された総選挙の投票率は五九・三二パーセントで戦後最低の投票率でした。前回における総選挙投票率は六九・二八パーセントで、今回より一〇ポイント近く高かったのです。前回総選挙で政権交代を目指して投票所に足を運んだ人びとは、国民審査には関心がなく白票を投じた。その彼らが今回は棄権したので、この一〇ポイント分の白票が減り、×票率が相対的に高まったのではないか。こういった推理も導き出すことができます。

より理解がむずかしいのは、なぜ告示順第二位の岡部喜代子裁判官が最も高い個別的罷免要求率になったかです。経歴がちよっと変わってしまっていて、裁判官になって七年で依願退官して弁護士に転じています。その後東洋大学法学部教授、慶應義塾大学法科大学院教授を経て、二〇一〇年に学者枠で最高裁入

りしました。最高裁判官として特段目立つ少数意見や行動はないようです。

強いて挙げれば、十人の審査対象者のうちただ一人の女性裁判官でした。その点が目立つといえは目立つのですが、彼女以前の三人の女性裁判官の個別的罷免要求率をみると、特段の共通した傾向はくくりだせません。なんともしまりのない結論ですが、彼女が最高率の個別的罷免要求率になった理由はわからないとしかいいようがありません。

むすびにかえて

国民審査などムダだからやめてしまえ、という意見をしばしば耳にします。正直に告白すれば、私もこの研究をはじめのまではそう思っていました。有権者にとって最高裁判官は匿名集団に近く、国民審査のときに個別のリストをつきつけられても判断のしようがない。あるいはそれもあって、やる前から結果はわかっているのだから、単なるセレモニーにすぎない。こういった酷評は当然一理あります。それでも、私はこの制度は存置し、投票方式を改めるなどしてより充実を図るべきだと考えています。

憲法八十一条は最高裁に違憲立法審査権を認めています。国民を代表する国会が成立させた法律を、最終的には最高裁が違憲として無効にすることができるとは、選挙を通

じて正当性を付与された民意を、なんら民主的根拠のない最高裁が覆すことができるわけです。制度的には司法が独走する余地があります。これを抑える手立てを主権者である国民に留保しているしくみこそ、国民審査なのです。国民審査が形骸化しているのは、むしろ司法が独走せず健全かつ謙抑的に機能している証拠だとみなせるかもしれません。

先月、『週刊金曜日』という雑誌に国民審査に関する拙文を寄せました。その一部を紹介することで、私の立場のまとめとします。

「結果がわかっていくからといって、その制度がムダであるとは限らない。国民審査は定期的に国民に最高裁の存在を思い起こさせ、審査される裁判官には×票にこめられた民意から自省を迫るおおきなきっかけになっている」(西川 二〇二二b:一五)。

ご静聴ありがとうございました。

〈引用・参考文献〉

朝日新聞裁判班編(一九七二)『法学セミナー増刊 日本の裁判』日本評論社。

西川伸一(二〇二二a)『最高裁判判官国民審査の実証的研究』五月書房。

(二〇二二b)「最高裁判判官国民

審査は確かに形式的だが民主的な司法を支える重要な制度だ」『週刊金曜日』二〇二二年十二月十四日号。

◆新入会員の紹介

前回までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略・到着順)



山本 良一
昭和三十八年商学部卒
(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長
兵庫県西宮市在住



とまり みつお
昭和三十七年政経学部卒
(株)博報堂常務執行役員
東京都杉並区在住



わだ けいこ
昭和五十四年政経学部卒
フォーデイズ(株)
代表取締役社長
東京都江東区在住

◆明大ニュース

●二〇三年度一般入試 志願者数七年連続
十万人超 四年連続で日本一

二〇一三年度の明治大学十学部の入学試験は、大学入試センター試験後期日程(三月四日出願締切、十四・十五日合格発表)を除

いて終了した。長引く不況の影響による地元志向や、「早慶明」とくられるなど、明大が難関校として認識された反動を受けつつも、総合数理学部の新設や、就職力、校友の活躍など明大の社会的評価の高まりにより、各種推薦・特別入試を除く総志願者数は十万九千三百十二人(二月二十二日現在)で、七年連続で十万人を超えたとともに、四年連続で志願者数全国一位となった。

●創立三〇周年記念 駿河台C地区施設

整備計画『グローバルフロント』竣工

明治大学は一月二十三日、創立一三〇周年記念事業として進めてきた施設整備計画のうちの一つで、駿河台C地区(旧十一号館跡地)に建設した『グローバルフロント』の竣工式を執り行った。竣工式には、日高憲三理事長、福宮賢一学長はじめ大学役員・役職者、長堀守弘前理事長、納谷廣美前学長ならびに建設関係者、地元町会長らが多数列席。太田姫稲荷神社の神職による神事式に続き、一階モニュメントおよび十七階の壁画の除幕と、制作者ならびに建設関係者への感謝状贈呈を行った。

●第四のキャンパス

「中野キャンパス」が完成

明治大学の第四のキャンパスとなる中野

キャンパスが一月三十一日に完成した。

東京の中野に、約六十年ぶりの新キャンパスとして誕生した中野キャンパスは、「国際化・先端研究・社会連携の拠点」と位置付けられ、本学の十番目の学部として新設される総合数理学部、和泉キャンパスから移転する国際日本学部の二学部のほか、特色豊かな大学院研究科および研究機関が展開される。

●国際大学を系列法人化「世界トップクラスのグローバルユニバーシティ」へ

双方の理事長・学長らが共同記者会見

明治大学はこのほど、国際大学（新潟県南魚沼市）との間で系列法人化に関する協定を締結。二月二十一日に、両大学の学長・理事長らによる共同記者会見を駿河台キャンパスで開催した。両大学は四月一日から系列法人として、国際化や教育・研究分野で強固な連携関係を築き、「世界トップクラスのグローバルユニバーシティ」を目指す。

●ブタ体内で脾臓再生に成功

移植用臓器作製へ前進

長嶋教授（明大）と中内教授（東大）らの研究グループが発表

明治大学農学部の中嶋比呂志教授と東京大学医科学研究所の中内啓光教授らの研究グループは、遺伝子導入と体細胞クローニング

技術を用いて脾臓のないクローンブタを作ることに成功した。その研究成果が二月十八日付けで米国科学雑誌「米国科学アカデミー紀要（PNAS）」に掲載されるのに合わせて、文部科学省の記者クラブで記者向けのレクチャー会が、科学技術振興機構（JST）主導で、明学と東大の共同発表として行われた。

●ロンドン五輪「金」メダリスト・秋山里奈さんに「明治大学特別功労賞」贈呈を決定

このたび明治大学は、ロンドン二〇一二パラリンピック女子百m背泳ぎで金メダルを獲得した秋山里奈さん（法研M2）に、「明治大学特別功労賞」を贈呈することを決定した。学業とスポーツの功績が、本学の名声を高めることに貢献したと認められたもの。

●OB社長

▽エイチ・エス証券(株)（証券） 〓和田智弘氏

（一九七四年政経学部卒・六十一歳）

▽ユニー(株)（小売業） 〓佐古則男氏（一九八〇年農学部卒・五十五歳）

〓岡部(株)（金属製品） 〓廣渡真氏（一九八〇年商学部卒・五十六歳、三月二十八日就任予定）

▽(株)JTB中国四国（サービス業） 〓青木尚二氏（一九八一年商学部卒・五十五歳、四月一日就任予定）

▽四国アルフレッサ(株)（医薬品） 〓川島啓嗣氏（一九七九年工学部卒・五十七歳、四月一日就任予定）

▽(株)ミツバ（電気機器） 〓長瀬裕一氏（一九七六年工学部卒・五十九歳、四月一日就任予定）

▽(株)JTB東北（サービス業） 〓千葉幸洋氏（一九八〇年法学部卒・五十七歳、四月一日就任予定）

●安倍第二次内閣

明大関係者から二人が就任

昨年十二月二十六日に発足した第二次安倍内閣に、明治大学関係からは校友の新藤義孝氏が総務大臣に、経営学部客員教授の長谷川榮一氏が内閣総理大臣補佐官（政策企画担当）に就任した。

▽総務大臣 〓新藤義孝氏（一九八〇文学部卒・五十四歳。経済産業副大臣、外務政務官等歴任。埼玉二区・自民前⑤）

▽内閣総理大臣補佐官（政策企画担当） 〓長谷川榮一氏（一九七六年東大法学部卒・六十歳。内閣広報官、中小企業庁長官等歴任。現在は明治大学経営学部客員教授）

●校友会東京都南部支部

「明治大学発祥の地・記念碑祭」開催

校友会東京都南部支部（米山耕右支部長）

は一月十二日、明治大学発祥の地である東京都千代田区有楽町で「明治大学発祥の地・記念碑祭」を開催。日高憲三理事長、福宮賢一学長をはじめ大学役員・役職者および校友ら約八十人が参列した。

●校友会徳島県支部 「三木武夫先生と睦子さん」ご夫妻を偲ぶ会」を開催

校友会徳島県支部（阿部頼孝支部長）は昨年十二月二十二日、徳島市内で「三木武夫先生と睦子さんご夫妻を偲ぶ会」を開催。支部会員、県内の地方議員や経済界など、生前の三木武夫・睦子夫妻にゆかりのあった者、約百五十人が献花して夫妻を偲んだ。

●専門職大学院会計専門職研究科主催講演会「プロフェッショナルを目指す」とは？

池上彰氏が解説

専門職大学院会計専門職研究科は一月十一日、ジャーナリストで東京工業大学教授の池上彰氏を招き「プロフェッショナルとは？専門職業人への誘い」をテーマに、駿河台キャンパスリバティホールで講演会を開催。約四百人が来場した。この講演会は、公認会計士や税理士など、会計のプロフェッショナルを志す人を対象とし、「プロフェッショナルを目指す」とはどのようなことかを、ジャーナリストとしてテレビや出版の世界で

活躍している池上氏が、自身の経験を踏まえて解説した。

●第四回明治大学連合父母会文学賞 阿久悠作詞賞大賞は水竹亜利沙さん（文3）の『逆走シンデレラ』

第四回明治大学連合父母会文学賞の表彰式が二月二十日、駿河台キャンパス紫紺館で執り行われた。阿久悠作詞賞は、等身大の女の子の気持ちを描いた水竹亜利沙さん（文3）の『逆走シンデレラ』が大賞に輝いた。同佳作には、林田こずえさん（国日2）、秋山弘樹さん（理工研2）、福永真梨佳さん（文3）の三人が選ばれた。倉橋由美子文芸賞の大賞は該当者なしだった。同佳作には、遠藤大洋さん（政経4）、亀海史明さん（情コミ研2）、三角莉香さん（文2）の三人が選ばれた。

●第三回図書館書評コンテスト

明大生が書評を競う「第三回明治大学図書館書評コンテスト」の表彰式が二月一日、駿河台キャンパス中央図書館多目的ホールで執り行われた。今年度の応募作品は全四十一編で、図書館運営委員や同司書らによる厳正な審査の結果、優秀賞三編をはじめ十二人が受賞した。最優秀賞の該当はなかった。

●「植村直己冒険賞」受賞者発表 日本人初の八千m峰十四座制覇の竹内洋岳氏に

明治大学が誇る世界的な冒険家の故・植村直己氏（一九六四年農学部卒）を讃えて創設された二〇一三年「植村直己冒険賞」の受賞者発表が二月二十五日、駿河台キャンパス紫紺館で行われた。

今回受賞したのは、日本人初の八千m峰十四座完全登頂に成功した登山家の竹内洋岳氏。加えて、女性最高齢の七十三歳で二度目のエベレスト登頂を果たした登山家の渡邊玉枝氏と、ガイド役で日本人最多の七度目の同峰登頂を達成したカメラマンの村口徳行氏の二氏が特別賞に選出された。

●ストップ地球温暖化 小さいけれど大きな一歩 黒川農場×川崎市

生ごみリサイクルの実証実験をスタート

明治大学黒川農場は二月十二日、川崎市と生ごみリサイクルの実証実験にかかわる連携事業の覚書を取り交わした。これは、市民一人ひとり、自らが環境問題に取り組むためのプロジェクトで、市民モニターが各家庭の生ごみを、市から提供されるダンボールコンポストで堆肥化。それを、四ヵ月毎に市が回収して黒川農場へ搬入。農場では、この堆肥を利用して農作物の展示栽培や、成分分析などを実施し、生ごみ堆肥の信頼性を向上さ

せるほか、市民や農家、関係団体への施肥指導を行うというもの。

●世界に広がる協定校

四十カ国・地域二百八大学と協定

明治大学は、ゲアナファト大学と大学間協力協定を新たに締結した。協定校は四十の国と地域で、二百八大学（学部間協定など含む）となった。

●駐日豪州大使が特別講義

「オーストラリア農業と日本」

駐日オーストラリア大使のブルース・ミラー氏が一月二十一日、農学部で「オーストラリア農業と日本」と題した特別講義を行った。これは農学部の山田優客員教授が「実際に講義内容に関わる人から講義を」と、担当する「農業マスコミ論特講」の授業に招いたもので、受講生以外にも一般の学生・大学院生も含め、約八十人が聴講した。

●明治大学グローバル人材育成シンポジウム

タイ国バンコクで開催

明治大学国際教育センターは一月二十日、タイのバンコクで、明治大学グローバル人材育成シンポジウム「グローバル人材育成に向けて―企業と大学の協働―」を開催した。

●国際総合研究所シンポジウム二〇三

世界をリードする研究者らが東アジアの安全保障などをテーマに討論

明治大学国際総合研究所は二月二十五日、駿河台キャンパスリバティホールでシンポジウムを開催した。第一部「新体制下の東アジアと安全保障秩序」、第二部「アジアの平和的発展と日本の役割」の二部構成で、世界をリードする国内外の研究者や有識者が基調講演とディスカッションを行った。同研究所主催のシンポは、昨年の研究所開設記念シンポに続いて二回目。

●明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート

遺伝子改変ブタの増殖でドイツのミュンヘン大学と技術交流

明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート（MUIBR）所長の長嶋比呂志・農学部教授と、農学部生命科学科発生活工学研究室のポスドク研究員および学生ら四人は一月二十三～二十五日、ミュンヘン大学の通称で知られるドイツのルートヴィヒ・マクシミリアン大学の分子動物育種・バイオテクノロジー研究所の機能遺伝子解析研究室（LAFUGA）のエクハルト・ウオルフ教授の研究室を訪ね、遺伝子改変ブタを効率よく増殖させるための技術交流を行った。

●自転車部 西沢（農3）が総合優勝！

明大史上初となる快挙を達成

体育会自転車部の西沢倭義（農3）は二月十七日、「全日本学生ロードレース・カップ・シリーズ二〇一二」のシリーズ最終戦となる「第七回明治神宮外苑大学クリテリウム」に出場して二位でゴールした。これにより二ポイントを加算し、年間で計三六ポイントを獲得してシリーズ総合優勝（年間チャンピオン）に輝いた。二位の選手には九四ポイントの差をつけて、明大史上初となるシリーズ制覇の偉業を見事に成し遂げた。

●ラグビー部 新監督に丹羽政彦氏が就任へ

明治大学は二月二十二日、体育会ラグビー部の新体制に関する共同記者会見を駿河台キャンパスで開催し、丹羽政彦氏（清水建設株、一九九一年文学部卒）の新監督就任を発表した。

◆駿台トピックス

ラグビー部吉田監督から丹羽監督へ

連合駿台会も新旧監督にエール

今年三月末日をもって任期満了になる体育会ラグビー部の吉田義人監督とチームスタッフと、丹羽政彦新監督と新スタッフを招いた「明治大学体育会ラグビー部チーム吉田慰労会及び新体制激励会」が三月七日、東京・



九段のホテルグラ
ンドパレスで開催
されました。発起
人の一人である日
高理事長から吉田
監督誕生秘話をお
伺いした後、吉田
監督の謝辞、福宮
学長の乾杯のご発
声となりました。

吉田監督は、昨
年十二月の明早戦

百戦目を勝利に導き、十四年ぶりに対抗戦優
勝を果たしましたが、時折り、言葉を詰まら
せながら思い出を語っていただきました。

丹羽政彦新監督からも決意が披露され、部
歌と校歌を斉唱し、新体制への激励ムードは
頂点に達しました。新体制のもと、チーム吉
田で芽吹いた新芽が、丹羽新体制で大輪の華
を咲かせてくれるよう大きな期待が集まりま
した。

◆駿台懇話会出席者

○明治大学ご招待者

日高憲三、福宮賢一、飯田和人、三木一
郎、松本隆栄、針谷敏夫、平井克彦、清水秀
夫、中村義行、伊藤光、竹本田持、山本昌
弘、藤江昌嗣、長尾進、大六野耕作、早瀬文

孝、安部悦生、飯田年穂、金子邦彦、桐原正
樹、横井淳子、高山茂樹、小野寺幸子、大野
友和、高村潤、小笠原渉、奥住賢二、永代達
三、富樫芳勝、西川伸一、関口裕昭、同ご同
伴、澁谷直人、川上直人、山田道郎、武野純
一、本橋正美
(敬称略)

○会員出席者

青柳勝栄、秋山隆敬、坪昭二、有賀隆治、
石橋良一、石原裕司、同ご友人、植木榮、上
西紘治、同ご友人、宇川一夫、潮田伊佐夫、
宇田川雄弘、打出満、内田八郎、海野美津
雄、江成健一、大石哲也、奥村勝広、笠井正
弘、刈部彰夫、清野明男、日下豊顕、栗原権
右衛門、小山修、根田哲雄、斉藤春夫、斉藤
弘之、斎藤柳光、坂田貞夫、坂田英夫、佐藤
和正、佐藤健、眞田瞳、椎名茂樹、杉浦伸
二、鈴木絃一、鈴木俊光、相臺志浩、園田英
次、高澤徹、田代恭一(代理)、田村駿、辻
嘉右エ門、天童美德(代理)、徳丸平太郎、
中川敏洋、中西幹育、中村欣治、中村豊、西
尾勝治、西崎誠次郎、西山武夫、二宮充子、
二宮忠、野口昌宏、橋口隆二、蓮池信之、長
谷川進一、濱崎治、平川清、福田和彦、福田
浩志、舟橋達彦、堀和子、同ご友人、前川一
郎、松崎優子、丸山律夫、向井眞一、村岡
健、山口政廣、山田朝彦、湯本良太郎、同ご
友人、吉村國廣

【編集後記】

昨年十月に連合駿台会の公式HPをリニューアル
してから、早四ヶ月が過ぎました。会員の皆様は、
立ち寄って頂けましたでしょうか。今後も皆様のご
意見を参考にさせて頂き、ブラッシュアップして参
りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、桜の季節になり、この四月からは新学期が
始まります。

今年もわが明治大学は、大学志願者が日本一にな
り、四年連続となりました。十一万人弱が志願され
たとのこと。およそ七百八十校も四年制大学が
ある中での記録ですから、人気は本物です。イメー
ジチェンジにも成功し、女子からも以前より増し
て支持されているようです。そして大学では、中野
キャンパスが開かれ、国際大学も系列法人に入り、
すごいスピードで変革が行われています。是非、名
実ともにトップスクールになるべく、オール明治を
結集してご協力をお願いしたいと思えます。

この卒業・入学の季節に、ああ良かったなと思っ
ておりました。数ヶ月前に新聞の投書欄を読ん
だところ、息子の高校卒業式に、就職する会社から
電報が届き、とても嬉しかったとの親御さんの記事
でした。「卒業おめでとう、育ててくれたご家族、学
校に感謝して下さい、会社は待っています」との内
容だったかと思えます。

私はとても素敵だなあといい、今年の新入社員に
なる生徒へ卒業式に電報を届けてもらいました。早
速、卒業式の午後に本人から電話がかかってきまし
た。「四月から頑張ります!」との希望に満ちた声で
した。いまだ、右も左も判らない十八歳、社会に出
る不安が少しでも消え、この初心を忘れずに、社会
に貢献する気持ちを持ち続けて欲しいなあと思っ
ています。

(大石 哲也)